

第 63 期

ビジネスレポート

自 2021年 4月 1日

至 2022年 3月31日

大和アセットマネジメント株式会社

事業の概況

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第63期（自2021年4月1日至2022年3月31日）の事業の概況をご報告申し上げます。

I 会社の状況に関する重要な事項

1. 事業の経過及びその成果

(1) 投資信託に関する運用に係る業務の状況

当期の公募投資信託純資産状況【表1】は、次のとおりです。前期末の投資信託純資産合計額は20兆9,800億円でしたが、当期末は21兆6,964億円へ増加しました（設定7兆8,949億円、解約7兆3,701億円、償還282億円、運用増8,004億円、収益分配5,805億円）。

株式投資信託の純資産は前期比8,427億円増加し（設定4兆4,049億円、解約3兆7,538億円、償還282億円、運用増8,004億円、収益分配5,805億円）、当期末には20兆2,616億円となりました。

公社債投資信託の純資産は、前期比1,263億円減少し（設定3兆4,900億円、解約3兆6,163億円）、当期末には1兆4,348億円となりました。内訳は、公社債投信で前期比66億円減の1,124億円、ダイワMRFは前期比1,197億円減の1兆3,223億円等となっております。

【表1】公募投資信託純資産状況（自2021年4月1日至2022年3月31日）（単位：億円）

		前期末 純資産	設定	解約	償還	資金増減	運用増減	収益分配	純資産 増 減	期 末 純資産
株 式 投 資 信 託	単位型	269	-	86	22	△109	△3	3	△115	153
	追加型	193,919	44,049	37,451	260	6,337	8,008	5,802	8,543	202,462
	計	194,188	44,049	37,538	282	6,228	8,004	5,805	8,427	202,616
公 社 債 投 資 信 託	公社債投信	1,191	62	129	-	△66	0	-	△66	1,124
	ダイワMRF	14,420	34,837	36,034	-	△1,197	0	0	△1,197	13,223
	その他公社債投資信託	0	0	0	-	0	0	-	0	0
	計	15,611	34,900	36,163	-	△1,263	0	0	△1,263	14,348
合計		209,800	78,949	73,701	282	4,965	8,004	5,805	7,164	216,964

(注) 1. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てております。

2. △は、減少を意味しております。

(2) 投資一任契約に係る業務の状況

当期は、国内の年金基金に対する投資一任業務及び外国籍投資信託の運用に係る投資一任業務を行ってまいりました。当期の投資一任契約に係る業務の状況は、【表2】のとおりです。

なお、当期末の契約件数は投資一任契約 18 件となっております。

【表2】投資一任契約に係る業務の状況

	国内		小計	海外		小計	合計
	年金	その他		年金	その他		
契約件数	2 件	0 件	2 件	0 件	16 件	16 件	18 件
運用資産総額	4,758 百万円	- 百万円	4,758 百万円	- 百万円	11,902 百万円	11,902 百万円	16,660 百万円

(注) 1. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てております。

2. 運用資産総額については時価ベースで算出しております。

(3) 投資助言業務の状況

当期は、海外の機関投資家に対する投資助言業務を行ってまいりました。当期の投資助言業務の状況は、【表3】のとおりです。

なお、当期末の契約件数は投資顧問契約 11 件となっております。

【表3】投資助言業務の状況

投資顧問契約	うち、顧客の資産の額を前提とした契約	
	契約件数	資産総額
11 件	11 件	334,854 百万円

(注) 1. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てております。

2. 資産総額については時価ベースで算出しております。

3. 邦貨換算レートは米ドル 122.39 円、豪ドル 92.00 円、ユーロ 136.70 円、カナダドル 97.90 円、ニュージーランドドル 85.33 円、南アフリカランド 8.44 円、トルコリラ 8.3536 円。

(4) 収益の状況

以上のような事業活動の結果、営業収益は 74,948 百万円（前期比 113.7%）、経常利益は 19,089 百万円（前期比 130.6%）、当期利益は 12,738 百万円（前期比 135.7%）となりました。

2. 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第 60 期 (2019年3月期)	第 61 期 (2020年3月期)	第 62 期 (2021年3月期)	第 63 期 (2022年3月期)
営 業 収 益 (百万円)	76,725	70,134	65,906	74,948
経 常 利 益 (百万円)	16,961	15,629	14,616	19,089
当 期 純 利 益 (百万円)	11,870	10,566	9,389	12,738
1 株 当 た り 当 期 純 利 益 (円 銭)	4,550.81	4,050.66	3,599.54	4,883.43
総 資 産 (百万円)	56,709	54,512	55,822	61,390
純 資 産 (百万円)	40,142	38,430	38,566	41,941
1 株 当 た り 純 資 産 額 (円 銭)	15,389.06	14,732.52	14,784.79	16,078.50

(注) 1. 記載金額は、表示単位未満を切り捨てております。

2. 「1株当たり当期純利益」は、「当期純利益」の金額を期中平均の発行済株式数で除して算出しております。

[第 60 期]

当期につきましては、株式投資信託の期末純資産は14兆6,161億円、前期比3.4%増となりました。また、公社債投資信託の期末純資産は1兆3,965億円、前期比4.6%減となりました。その結果、営業収益は76,725百万円、経常利益は16,961百万円となっております。

[第 61 期]

当期につきましては、株式投資信託の期末純資産は13兆4,783億円、前期比7.7%減となりました。また、公社債投資信託の期末純資産は1兆4,219億円、前期比1.8%増となりました。その結果、営業収益は70,134百万円、経常利益は15,629百万円となっております。

[第 62 期]

当期につきましては、株式投資信託の期末純資産は19兆4,188億円、前期比44.0%増となりました。また、公社債投資信託の期末純資産は1兆5,611億円、前期比9.7%増となりました。その結果、営業収益は65,906百万円、経常利益は14,616百万円となっております。

[第 63 期]

当期につきましては、前記のとおりであります。

3. 対処すべき課題

当社は、2021 年度からの 3 年間を対象期間とする中期経営計画を策定し、これに基づいて単年度経営計画である 2022 年度アクションプランを策定しております。2022 年度は、中期経営計画及び 2022 年度アクションプランの実現に向けて取り組んで参ります。

4. その他会社の現況に関する重要な事項

該当事項はありません。

損 益 計 算 書

〔 自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日 〕

(単位：百万円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		74,948
委託者報酬	74,402	
その他営業収益	545	
営 業 費 用		44,768
支払手数料	31,234	
その他営業経費	13,534	
一 般 管 理 費		11,628
営 業 利 益		18,551
営 業 外 収 益		631
営 業 外 費 用		93
経 常 利 益		19,089
特 別 損 失		331
投資有価証券評価損	331	
税引前当期純利益		18,757
法人税、住民税及び事業税	5,950	
法人税等調整額	69	
当 期 純 利 益		12,738

株主資本等変動計算書

(自 2021 年 4 月 1 日
至 2022 年 3 月 31 日)

(単位：百万円)

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	15,174	11,495	374	10,574	10,948	37,618
当期変動額						
剰余金の配当	-	-	-	△ 9,388	△ 9,388	△ 9,388
当期純利益	-	-	-	12,738	12,738	12,738
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-
当期変動額合計	-	-	-	3,350	3,350	3,350
当期末残高	15,174	11,495	374	13,925	14,299	40,969

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	947	947	38,566
当期変動額			
剰余金の配当	-	-	△ 9,388
当期純利益	-	-	12,738
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	24	24	24
当期変動額合計	24	24	3,374
当期末残高	971	971	41,941

個別注記表

[重要な会計方針に係る事項に関する注記]

1. 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法により計上しております。

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のものについては決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)により、市場価格のない株式等については移動平均法による原価法により計上しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 10～18年

器具備品 4～20年

(2) 無形固定資産

定額法によっております。ただし、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年間)に基づく定額法によっております。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

役員及び従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。これは、当社の退職金は、将来の昇給等による給付額の変動がなく、貢献度、能力及び実績等に応じて事業年度ごとに各人別の勤務費用が確定するためであります。また、執行役員・参与及び上席参事についても、当社の退職金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、当社の役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

当社は証券投資信託の信託約款に基づき、証券投資信託の運用について履行義務を負っております。委託者報酬は、日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を受け取ります。当社が日々サービスを提供する時に当該履行義務が充足されるため、証券投資信託の運用期間にわたり収益を認識しております。

5. 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

6. 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、翌事業年度から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行することとなります。ただし、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

なお、翌事業年度の期首から、グループ通算制度を適用する場合における法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示の取扱いを定めた「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）を適用する予定であります。

[会計方針の変更に関する注記]

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これによる当事業年度の損益及び期首利益剰余金に与える影響はありません。

[重要な会計上の見積りに関する注記]

該当事項はありません。

[貸借対照表に関する注記]

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	32 百万円
短期金銭債務	4,941 百万円
長期金銭債権	3 百万円

2. 有形固定資産の減価償却累計額 320 百万円

3. 保証債務

子会社である Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd. の債務 1,900 百万円に対して保証を行っております。

[損益計算書に関する注記]

1. 関係会社との取引高

営業収益	94 百万円
営業費用	1,266 百万円
一般管理費	270 百万円
営業取引以外の収益	19 百万円

2. 営業外収益の主要項目

損益計算書の営業外収益には、投資有価証券売却益 327 百万円が含まれています。

[株主資本等変動計算書に関する注記]

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	前事業年度末 株 式 数	当 事 業 年 度 増 加 株 式 数	当 事 業 年 度 減 少 株 式 数	当 事 業 年 度 末 株 式 数
普通株式	2,608	—	—	2,608
合 計	2,608	—	—	2,608

2. 配当に関する事項

(1) 剰余金の配当支払額

決議	株 式 の 種 類	剰 余 金 の 配 当 の 総 額 (百万円)	1 株 当 た り 配 当 額 (円)	基 準 日	効 力 発 生 日
2021年6月22日 定時株主総会	普通株式	9,388	3,599	2021年 3月31日	2021年 6月23日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2022年6月23日開催の定時株主総会の議案として、普通株式の配当に関する事項を次のとおり提案しております。

- ① 剰余金の配当の総額 12,737 百万円
- ② 配当の原資 利益剰余金
- ③ 1株当たり配当額 4,883 円
- ④ 基準日 2022年3月31日
- ⑤ 効力発生日 2022年6月24日

[税効果会計に関する注記]

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位：百万円)

繰延税金資産	
退職給付引当金	734
賞与引当金	227
未払事業税	213
投資有価証券評価損	144
システム関連費用	111
出資金評価損	94
その他	437
繰延税金資産小計	1,963
評価性引当額	△ 356
繰延税金資産合計	1,607
繰延税金負債	
連結法人間取引（譲渡益）	△ 159
有価証券評価差額	△ 562
繰延税金負債合計	△ 722
繰延税金資産の純額	885

[金融商品に関する注記]

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業及び投資助言・代理業などの資産運用に関する事業を行っております。資金運用については安全性の高い金融商品に限定しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

証券投資信託に係る運用報酬の未決済額である未収委託者報酬は、運用するファンドの財産が信託されており、「投資信託及び投資法人に関する法律」、その他関係法令等により一定の制限が設けられているためリスクは極めて軽微であります。有価証券及び投資有価証券は、証券投資信託、株式であります。証券投資信託は事業推進目的で保有しており、価格変動リスク及び為替変動リスクに晒されております。株式は上場株式、非上場株式、子会社株式並びに関連会社株式を保有しており、上場株式は価格変動リスク及び発行体の信用リスクに、非上場株式、子会社株式及び関連会社株式は発行体の信用リスクに晒されております。関係会社短期貸付金は、親会社に対して貸付を行っているものであります。

未払手数料は証券投資信託の販売に係る代行手数料の未払額であります。その他未払金は主に連結納税の親会社へ支払う法人税の未払額であります。未払費用は主にファンド運用に係る業務を委託したこと等により発生する費用の未払額であります。これらは、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①市場リスクの管理

(i) 為替変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに為替変動リスク管理の検討を行っております。

(ii) 価格変動リスクの管理

当社は、財務リスク管理規程に従い、個別の案件ごとに価格変動リスク管理の検討を行っており、定期的に時価や発行体の財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

②信用リスクの管理

発行体の信用リスクは財務リスク管理規程に従い、定期的に財務状況等を把握しリスクマネジメント会議において報告を行っております。

2. 金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項

貸借対照表計上額、時価並びにレベルごとの内訳等については、次のとおりであります。なお、2019年7月4日公表の企業会計基準適用指針第31号「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（以下、「2019年適用指針」という。）第26項に従い経過措置を適用した有価証券、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。

また、金融商品の時価は、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価
時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価をもって貸借対照表価額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

	貸借対照表計上額(※1)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券(※1)	66	-	-	66
資産合計	66	-	-	66

(※1) 2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用し、有価証券486百万円、投資有価証券10,022百万円は上記の表に含めておりません。

(2) 時価をもって貸借対照表価額としない金融資産及び金融負債

現金・預金、未収委託者報酬、関係会社短期貸付金、未払金及び未払費用は、短期間(1年以内)で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注1) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

投資有価証券

株式は活発な市場における無調整の相場価格を利用できることから、その時価をレベル1に分類しております。なお、2019年適用指針第26項に従い経過措置を適用している有価証券は、公表されている基準価額によっていることからレベルを付しておりません。

(注2) 市場価格のない株式等の貸借対照表計上額は次のとおりであり、金融商品の時価等及び時価のレベルごとの内訳等に関する事項で開示している表中の投資有価証券には含めておりません。

(単位：百万円)

区分	貸借対照表計上額
非上場株式等	666
子会社株式	1,677
関連会社株式	2,027

[関連当事者との取引に関する注記]

1. 親会社

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社	㈱大和証券グループ本社	東京都千代田区	247,397	証券持株会社業	被所有 100.0	あり	経営管理	資金の貸付	19,000	関係会社短期貸付金	24,900
								利息の受取 (注)	0	受取利息関係会社	0

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 貸付利息については市場金利を勘案して合理的に決定し、返済期間は1年以内としております。なお、担保は受け入れておりません。

2. 子会社

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合 (%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
子会社	Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.	Singapore	133	金融商品取引業	所有 100.0	なし	経営管理	債務保証 (注)	1,900	—	—

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) シンガポール通貨庁(MAS)に対する当社からの保証状により、当該関連当事者の債務不履行、及びMASへの全ての損害等に対して保証しております。なお、債務総額は当該関連当事者の総運用資産額に応じて保証状にて定めるとおりに決定しております。

3. 兄弟会社

属性	会社等の名称	住所	資本金または出資金 (百万円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関係内容		取引の内容	取引金額 (百万円) (注1)	科目	期末残高 (百万円)
						役員の兼任等	事業上の関係				
親会社の子会社	大和証券(株)	東京都千代田区	100,000	金融商品取引業	-	なし	証券投資信託受益証券の募集販売	証券投資信託の代行手数料(注2)	15,348	未払手数料	3,028
							本社ビルの管理	不動産の賃借料(注3)	1,062	長期差入保証金	1,054
親会社の子会社	(株)大和総研	東京都江東区	3,898	情報サービス業	-	なし	ソフトウェアの開発・保守	ソフトウェアの購入・保守(注4)	1,065	未払費用	91

(注1) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(注2) 証券投資信託の代行手数料については、証券投資信託の信託約款に定める受益者が負担する信託報酬のうち、当社が受け取る委託者報酬から代理事務に係る手数料として代行手数料を支払います。委託者報酬の配分は、両者協議のうえ合理的に決定しております。

(注3) 差入保証金および賃借料については、近隣相場等を勘案し、交渉の上、決定しております。

(注4) ソフトウェアの購入・保守については、市場の実勢価格を勘案して、その都度交渉の上、購入価格を決定しております。

[収益認識に関する注記]

(1) 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、証券投資信託に関する運用その他の業務を行っております。営業収益の内訳は、証券投資信託に関する運用に係る業務が74,402百万円、その他545百万円であります。

(2) 収益を理解するための基礎となる情報

「重要な会計方針に係る事項に関する注記」の「収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

(3) 当事業年度及び翌事業年度以降の収益の金額を理解するための情報

重要性が乏しいため記載を省略しております。

[1 株当たり情報に関する注記]

1 株当たり純資産額	16,078 円 50 銭
1 株当たり当期純利益	4,883 円 43 銭
1 株当たり当期純利益金額の算定上の基礎	
当期純利益	12,738 百万円
普通株式の期中平均株式数	2,608,525 株

[重要な後発事象に関する注記]

該当事項はありません。

当社の概要

(2022年3月31日現在)

1. 設立年月日

1959年12月12日

2. 本店

〒100-6753 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
電話 03-5555-3111

3. 海外拠点

Daiwa Asset Management (America) Ltd.

(ダイワ・アセット・マネジメント (アメリカ))

Daiwa Asset Management (Europe) Ltd

(ダイワ・アセット・マネジメント (ヨーロッパ))

Daiwa Asset Management (H.K.) Limited

(ダイワ・アセット・マネジメント (ホンコン))

Daiwa Asset Management (Singapore) Ltd.

(ダイワ・アセット・マネジメント (シンガポール))

Daiwa Portfolio Advisory (India) Private Limited

(ダイワ・ポートフォリオ・アドバイザー (インド))

Daiwa Capital Management Silicon Valley Inc.

(ダイワ・キャピタル・マネジメント・シリコンバレー)

4. 事業内容

当社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言業務等の関連する業務を行っております。

5. 株式に関する事項

(1) 発行済株式総数 2,608,525 株

(2) 株主数 1 名

当社の経営体制

(2022年6月23日現在)

代表取締役社長	小松幹太
代表取締役副社長	岩崎靖史
取締役兼専務執行役員	重田修
取締役兼専務執行役員	関根太
取締役兼常務執行役員	伊倉智毅
取締役兼常務執行役員	間宮賢
取締役兼常務執行役員	山野井徹
取締役	佐藤英二
社外取締役	濱田豊作
社外取締役	門間大吉
社外取締役	白河桃子
常勤監査役	深田直子
常勤監査役	細田和広
監査役	花岡幸子
監査役	横溝慶吾
常務執行役員	江原淳一郎
常務執行役員	熊原祐次
常務執行役員	小林桂治
常務執行役員	林浩太郎
常務執行役員	上野賢一
執行役員	福田康介
執行役員	栗原昌由
執行役員	赤坂誠一
執行役員	千田浩之
執行役員	大津留淳一
執行役員	吉野浩香
執行役員	嶋田由香